

永松だより

松源寺通信
第26号

開創1521年(大永元年)
2024年(503)

ご挨拶 【同事どうじ】

今年はお正月に能登半島の地震が発災しました。その後も余震が続いています。いち早く災害ボランティアが駆け付け支援が行われました。半島の特徴で物資を届ける路が確保できず孤立した集落がありました。

【同事どうじ】道元禅師はこの同事という禅語を端的にこう説明している。

「同事といふは不違（ふい）なり」

同事というのは「違わないこと」という意味である。

相手と自分とが違わないこと。相手の立場に立つとは、まさに自分と相手とが違わないことにほかならない。被災した人、支援する人が違わない事。

世界の戦争や貧困など我が事として注視して行きたい。



梅花流 教階の一覧

僧侶

助教⇩師範補⇩五級師範⇩四級師範⇩三級師範⇩
二級師範⇩一級師範 ※【正伝師範】

檀信徒

教導⇩権正教導⇩正教導⇩権中教導⇩中教導⇩
権大教導⇩大教導⇩三級教導⇩二級教導⇩一級教導

大輝のつぶやき

昨年より学び始めた梅花養成所も上級に上がり一年目が始まりました。上級に上がりますと曲の習得だけでなくイロやツヤといった声を震わせる発声法も用いる為、より細かいお唱えを学ぶことになります。松源寺梅花講も開講し一年が経ちました。が講員が私一人という状況です。もし梅花に興味がありましたら気軽にご連絡下さい。共に梅花を学んでいきましょう。



松源寺檀信徒 各位

令和六年 盂蘭盆大施食法要
 八月十四日 午後二時三〇分

【共感】

他人の考え、主張、感情を、
 自分もその通りだと感じること。
 また、その気持。同感。

他人が喜ぶのをみるとともに喜び、
 他人が悲しむのをみるとともに悲し
 むというように、他人と同じ感情を
 もつことをいう。この場合、ある人(他
 人)がまずある感情を体験している
 ということが前提条件で、その感情

の表出を観察者(自分)がみて、自
 分も同じような感情を体験すること
 をいう。他人がどのような感情を抱
 いているかを観察しないで、たぶん
 あの人は悲しんでいるであろうと自
 分かってに推測して、悲しんでみせ
 るというのは共感とはいえない。ま
 た、他人が悲しみの情動を体験して
 いるのを確かに理解できても、自分
 は悲しくなれないというのも共感で
 はない。ある人とともに悲しむため
 には、自分もその人と同じような悲
 しい体験をしていることが必要とも
 いえる。親を失った人の悲しみは、
 自分も親を失って悲しい体験をした
 という人によって初めて共感できる
 というように、ある感情への共感ほ、
 その感情についての先行体験が必要
 条件ということができる。カウンセ
 リングや心理療法などで、カウンセ
 ラーは来談者を共感的に理解しなけ
 ればならないとされているが、共感

はこのような専門
 領域における対人
 関係だけではな
 く、一般の日常生
 活においても人間
 関係を円滑にして
 いくために必要な
 ことである。



地域防災訓練

青葉土樋町内会と共に

毎年七月十日に開催。



地球を取り巻く環境は変化し、
 人間の影響から温暖化や気候変動
 が起こっている。また、その日は
 仙台空襲で多くの人が犠牲になっ
 た。我が事として捉え、日ごろか
 ら備えることの大切さを学びたい。

第一教区主催 萬燈供養法要

令和六年九月二十五日(水)

十六時三〇分受付 十七時三〇分開始

会場は秋保 向泉寺 〔二霊 二千元〕

令和元年九月に松源寺が会場で開催された法要は、コロナ禍で中止となっていた。五年ぶりに再開される。

「貧女の一灯」のお話は、昔、おシャカさまが説法なさる時、貧しい女性が自分の髪を切って売り、明かりを一つ買い、差し上げました。強い風が吹いてきた時、お金持ちの人の寄付のたくさん明かりは消えたのに、その女の人の寄付の明かりだけは消えなかったお話から来ています。お釈迦さまの尊い教えを請い、説法の間を明るく灯す油をお供えた女性の逸話から、今日まで各地で開催されている法要。



清掃会計

毎年8月のお盆のころに境内墓地の檀家には清掃活動の為に5千円をお納め頂いております。

また年末には檀家全戸から1万円の佛供米料と維持費をお納め頂いている。

墓参の折のゴミ箱の処理にかかる経費やトイレの定期的な清掃などは専門業者に依頼している。昨今の物価高でこれらの金額も上がってきている。

ゴミは持ち帰りとして境内のゴミ箱を撤去したお寺もあるが、先祖供養のため各地からお参りに来られる方々の為にも、現在の形を続けていきたいと思っています。

令和5年度 (宗)松源寺護寺費収支 決算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入総額	8,979,020 円
支出総額	10,843,376 円
差引差額	-1,864,356 円

仏具紹介

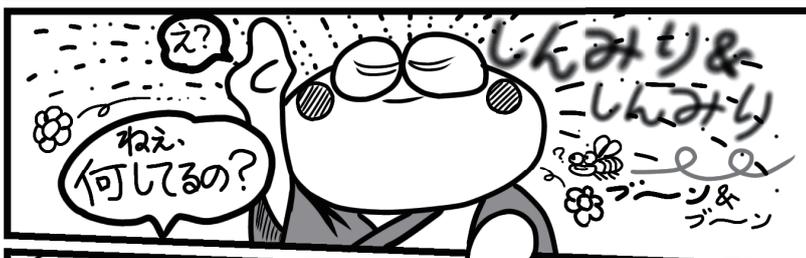


しゃすいき 洒水器

洒は注ぐの意。洒水とは水を注ぐこと。行持において、道場を浄めたり、智慧を水に托して四方に渡らせるなどの意義があるとされる。その際には、主として真鍮などで出来た洒水器に水を入れ、洒水枝でもって注ぐ。

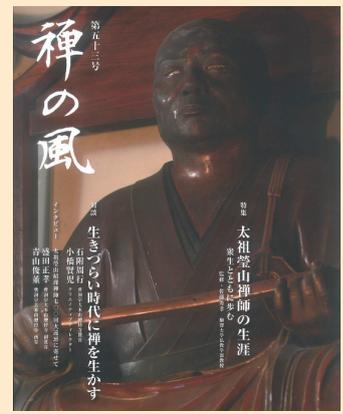
松源寺 もくまつさん 6話

作 葉 駿



本をよむ [第21回]

第五十三号 禅の風



太祖瑩山禅師の生涯
衆生とともに歩む

瑩山禅師が開創した洞谷山永光寺(34ページ参照)の伝燈院に祀られている「木造瑩山紹瑾禅師坐像」(南北朝時代、寄木造り・玉眼嵌入・下地布貼り・漆彩色、像高112cm、石川県指定有形文化財)。瑩山禅師の高弟で永光寺をついだ明峯素哲禅師による「釈迦牟尼佛五十四世法孫大乘二代洞谷山開闢」「真像正中二年八月十五日已剋於当寺」という裏書があることから、瑩山禅師が正中2年(二三二五)に遷化する直前の容貌を刻んだものであると考えられている。

禅の風五十三号 発行所 曹洞宗宗務庁
発売所 水曜社 定価 一三〇〇円+税

◆ 禅の小窓 24 * 喜心 老心

五如来旗 (こによらいばた)



施食棚にお飾りする五色旗のこと、五色とは青・黄・赤・白・黒とされており、仏教における如来の精神や知恵を表すといわれています。青の変わりに緑、黒の代わりに紫を使う事もあります。そのルーツはインドの「五大思想」に基づくもので古代仏教において宇宙の構成と考えられた五大要素「地・水・火・風・空」の五つの象徴を意味します。

◆ 大心